

第6回 宮川流域五流総地域委員会 議事概要

宮川流域五流総地域委員会事務局

日時：平成29年7月10日（月）13:30～14:35

場所：飛騨総合庁舎 分館 大会議室

1. 議事

- 「規約改定」
- 「宮川流域における総合的な治水対策プラン」の進捗について
 - 1) ハード対策（河川整備、耐震化、長寿命化）
 - 2) ソフト対策

2. 議事要旨

○規約改定

事務局より規約改定について説明があった。委員より特に意見はなし。

○「宮川流域における総合的な治水対策プラン」の進捗について

事務局より治水対策プランの進捗管理とハード・ソフト対策に関する進捗管理表について説明があり、質疑がなされた。各項目について交わされた質疑応答の主な内容は以下のとおりである。

（1）河道改修効果について

- ・平成26年8月洪水が発生したが、近年の河道改修等の効果が確認でき、地域の住民は喜んでいる。今後も河道掘削等を実施して欲しい。

（2）出水時の避難行動について

- ・気象庁から大雨特別警報が出された場合、河川の水位や流量がどのような状況になるのか、どの段階で、どのように住民に情報を周知し、避難させれば良いのかがわからない。

→気象台では洪水に関する警報を発表しているので、まず、HP等を見て実態を把握して欲しい。

→県ではリアルタイム水位情報を発表している。氾濫危険水位超過で避難勧告になるなど、各種水位に基準がある。

（3）地域の防災力向上について

- ・地域住民に防災教育をしっかり行い、高い防災意識を持って欲しい。

（4）自然と共生した川づくりについて

- ・治水に力を入れているのが現状で、河床を掘削したことで、岩盤が露出した箇所、瀬がなくなった箇所、新たに土砂が堆積する箇所などがみられる。自然共生川づくりには期待しているので、良い工法で対策を行って欲しい。

→河川改修にあたっては、現況河床をスライドダウンし河床を掘削する方法や、護岸を覆土して植生の回復を図る方法等を採用し、できるだけ環境に配慮した工法を採用している。

(5) 洪水時の流木対策について

- ・洪水時には、宮川本川ダム下流から、流木の流出が見られ、橋梁に引っかかる等の問題が懸念される。流木対策及び下流部での土砂堆積について対策を考えて欲しい。

以上